

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

教育実習等実施計画	
1 教育実習等の内容及び成績評価等	
① 教育実習等の時期	<p>「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」の実施時期：4年次5月～9月 「学校体験活動」の実施時期：3年次5月～3月、4年次4月～7月</p>
② 教育実習等の実習期間・総時間数	<p>「教育実習Ⅰ」：4週間（120時間） 「教育実習Ⅱ」：3週間（90時間） 「教育実習Ⅲ」：2週間（60時間） 「学校体験活動」：1～2週間（30～60時間）</p>
③ 実習校の確保の方法	<p>「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」については、本学が所在する金沢市内および近隣の協力校で実施する。中学校については、本学附属の金沢学院大学附属中学校で実施する他、本学と包括連携協定を交わしている金沢市や野々市市、白山市、かほく市等の教育委員会に依頼し、実習先の確保について協力が得られることとなっている。また、高等学校については、本学附属の金沢学院大学附属高等学校で実施する他、金沢市内及び近郊の協力校で実施する。</p> <p>いずれの場合も、実習校との連絡窓口は教職センターが担うこととなっており、毎年、実習生の受入について各校と具体的な相談・依頼をすることとしている。</p> <p>「学校体験活動」については、3年次に本学附属の金沢学院大学附属中学校、金沢学院大学附属高等学校で実施しているが、高校や実習生の都合等で、近隣協力校で実施することもある。また、中学校教諭の免許状取得を希望する学生については、金沢市教育委員会や野々市市教育委員会等に依頼し、近隣の中学校で実施している。</p>
④ 実習内容	<p>「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」については、実習校における適正な実習人数・規模を勘案して実習校を割り当て、4年次に2～4週間実施する。実習期間中に、授業研究・観察実習・参加実習30（教育実習Ⅲ）・60（教育実習Ⅱ）・90（教育実習Ⅰ）時間、授業担当・教壇実習15（教育実習Ⅲ）・30（教育実習Ⅱ）・45（教育実習Ⅰ）時間（研究授業1時間を含む）を実施する。</p> <p>学校の組織と運営の観察・参加による実際的理解、教師の仕事と役割・校務分掌の具体的把握、教科教員の教科学習指導法の観察と習得、授業計画・学習指導案・本時案の研究と作成、授業技能の観察と習得、支障のない範囲内でのHR学級経営への補助的参加と実習、学校行事・部活動・奉仕活動などの特別活動への補助的参加、これらを通じての生徒理解・生徒掌握の基礎力形成、家庭や地域との連携教育や通信・情報機器の活用実態の問題の理解と指導法の習得、学校と家庭・地域の求める学校危機管理・危機対応の研究と習得を行う。</p> <p>「学校体験活動」については、実習校担当教員の指示の下で、学校における授業や部活動等の教育活動その他の校務に関する補助を体験する活動として、協力校において1～2週間（30～60時間）実施する。実習校の都合により、1～2週間集中的に実施することもあれば、長期にわたり、1日数時間程度ずつ実施する場合もある。</p>

⑤ 実習生に対する指導の方法

学科と教職センターが協働して全体統括し、学科に係る全教職員の連携と分担により、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」及び「学校体験活動」の期間中は、どのような事態にも即応できる体制を組む。実習生の指導については、学科教員および教職センター教職員と実習校の指導教諭との間で連携をとりながら行う。

教育実習実施に際して、学科全体で以下2点の指導に取り組む。

(1)実習校への巡回・訪問指導を実施する。

(2)各実習生に対して、個別に実習指導教員を配置し、中学校・高等学校における教育実習については、実習期間中において、1回以上の訪問指導を実施する。実習指導教員は、担当実習生の研究授業の参観に努め、実習校における教科反省会への出席、並びに、実習生の成績評価に関する基礎情報・資料収集および指導教諭等との協議・所見聴取を直接行う。

学校体験活動実施に際しては、実施校と事前に連絡を取り合い、活動内容等について検討を行う。期間中は、教職センターが窓口となって連携を取る。

⑥ 実習の成績評価（評価の基準及び方法）

※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。

教育実習の事前に、教育実習校へ本学所定の「教育実習評価票」を送付し、教育実習校の実習指導結果を集約する。事項別評価（学習指導（教材研究・教科指導の技術）、生徒指導（生徒との触れあいと生徒指導）、勤務（勤務態度、出勤状況））及び所見、総合評価を記述してもらい、大学による教育実習単位評価の基礎資料とする。学科教員と教職センター委員を中心として、訪問指導教員の所見（直接聴取、評価シート記述内容）も反映させ、総合的に教育実習の単位評価を行う。

学校体験活動についても、体験ノートを作成し、記録をつけさせることで、評価の参考とする。

2 事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数

・事前指導

「学校体験活動」 3年次前期 4月 2時間

「教育実習指導」 4年次開講 前期 15時間

石川県教育委員会教育長による教育実習事前指導講話 毎年5月 1回1時間

教職センターによる事前ガイダンス … 2年次1月1時間、3年次月1時間

・事後指導

「学校体験活動」 3年次後期 10月～12月 3時間（体験報告会を含む）

「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」 4年次前期 7月 2時間

② 内容（具体的な指導項目）

・事前指導

「学校体験活動」を3年次に開講する。この活動を通して授業補助、放課後学習、その他校務を手伝うことにより、児童・生徒などの子どもに対する理解や、教員としての指導技術、校務について学び、教員としての実践的な能力を身につけることを目的としている。

「教育実習指導」を4年次に開講する。学校現場に出るにあたって、学生が「教育実習や学校体験活動の目的・意義・内容」を理解し、事前に実習等に必要な準備を行う。実習等の期間中は、一人の教員として教育現場において勤務しなければならないため、教員の日常のイメージ的な理解にとどまることなく、予め学校現場における「学校教育の現状」と「教員の勤務状況」を体系的に理解し、学校で活動するために必要な「指導力、行動力、実践力」、そして何よりも「教員としての心構え」の体得をはかっておかねばならない。

具体的には、実習校に対する「実践的なアプローチマナー」の体得に始まり、実習時の「授業参観の研究」「学校組織と教員の校務分掌の理解」と「果たすべき分掌上の役割」「生徒指導」「教育実習上起こりうる問題への対処方法」など、実践的知識と実際における行動の検討と理解を目標に事前指導を行う。実際に、附属の金沢学院大学附属高等学校へ訪問し、授業等を参観する機会も設けている。

また、石川県教育委員会との協働により、毎年5月に1年生から4年生までの教職課程履修者を対象とした教育長による教育実習指導講話を実施し、石川県が求める教員像や教育現場が抱える最新の課題等を学ぶ。

さらに、教職センターによる事前ガイダンスを開催する。2年次1月のガイダンスでは、教育実習および学校体験活動についての希望調査を実施し、受け入れ校選定と依頼についての説明を行う。3年次4月には学校体験活動直前ガイダンスを行い、学校体験活動の意義や目的・内容について再度確認を行う。

・事後指導

3年次後期には、「学校体験活動」を履修した学生を対象に事後指導を実施する。「学校体験活動」中に作成した体験ノートに基づき、学科の担当教員及び教職センター教職員による個別面談を実施する。

4年次前期7月には、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」を前期に終了した学生を対象に、反省会と報告会を開催する。その他、学科教員や教職センター教職員による個別面談も実施する。

4年次後期の「教職実践演習（中・高）」において、これまで作成してきた履修カルテを活用した振り返りと総括を行い、教育実習およびこれまでの教職についての学びの集大成とさせる。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称
 - ・ 金沢学院大学教職センター
 - ・ 教職センター委員会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

平成30年4月に、教職課程に係る業務と教職課程履修者に対する指導を行う部署として、教職センターを開設した。教職センターの運営については、教職センター長1名、副センター長2名の教員を配置し、さらに、兼任事務職員4名を配置している。また、教職センターと各学部・学科等との協力・連携を図るため、センターに配置した教職員の他、教職課程を有する学科・専攻の担当教員と全学共通の教職課程の専任教員など13名（うち、併設の短期大学から2名）を教職センター委員としている。
- ・ 委員会等の運営方法

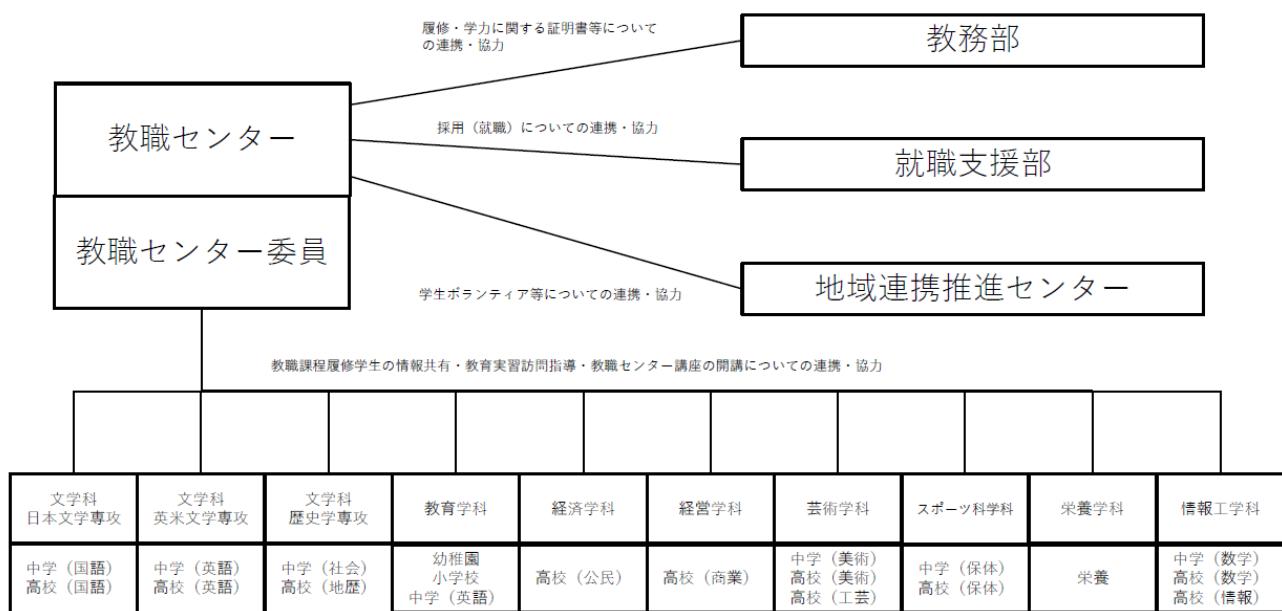
教職センターでは、毎週教職センター運営委員会を開き、それぞれの担当業務内容の進捗等について、

センター内での共有を図っている。また、教職センター委員会を定期的に開催し、学生の状況についての共有を図るとともに、各学科・専攻と教職センターとの双方向での依頼事項や確認事項について連絡を取り合うこととしている。

教育実習については、教職センターで取りまとめているが、訪問指導は各課程の担当教員（ゼミ担当教員や教職センター委員）が行うため、各学科・専攻との連絡・連携を取りながら、全体での把握・指導に努めている。

【委員会の組織図】

金沢学院大学教職センター 関係図



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

- 委員会等の名称
 - 金沢学院大学教職センター
 - 教職センター委員会
- 委員会等の構成員（役職・人数など）

上記の通り

- 委員会等の運営方法

教職センターでは、毎週スタッフミーティングを行い、それぞれの担当業務内容の進捗等について、教職センター内での共有を図っている。また、教職センター委員会を定期的に開催し、学生の状況についての共有を図るとともに、各学科・専攻と教職センターとの双方向での依頼事項や確認事項について連絡を取り合うこととしている。

教育実習については、教職センターで取りまとめているが、訪問指導は各課程の担当教員（ゼミ担当教員や教職センター委員）が行うため、各学科・専攻との連絡・連携を取りながら、全体での把握・指導に努めている。

学校体験活動については、教職センターが窓口となり、協力校の担当者と協働で実施する。実施の状況については、教職センター委員等を通じて、各学科・専攻にも報告し、共有することとしている。

【委員会の組織図】

上記に同じ

4 教育実習の受講資格

「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」の履修は、原則として、3年次までに開講している「教育の基礎的理解に関する科目等」を全て履修した者に限る。ただし、3年次終了までにガイダンス等への出席状況や授業態度、関係する科目の修得状況などにより、実習生としてふさわしくないと本学が判断した場合は教育実習の履修を認めない場合がある。

5 実習校

教育実習	体験活動	学級数の合計	中学校 585 学級、高等学校 58 学級	
○	○	学校名	金沢学院大学附属中学校（石川県金沢市末町 10） 学級数：4 クラス 生徒数：132 人	
		教員数	21 人（内訳）教諭 10 人、助教諭 0 人、講師 11 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人	
○	○	学校名	金沢学院大学附属高等学校（石川県金沢市末町 10） 学級数：32 クラス	
		教員数	生徒数：1,069 人 68 人（内訳）教諭 59 人、助教諭 0 人、講師 9 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人	
○	○	学校名	石川県立小松商業高等学校（石川県小松市希望丘 10 番地） 学級数：8 クラス	
		教員数	生徒数：410 人 39 人（内訳）教諭 33 人、助教諭 1 人、講師 5 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人	
○	○	学校名	金沢市立工業高等学校（石川県金沢市畝田東 1 丁目 1 番地 1） 学級数：18 クラス	
		教員数	生徒数：717 人 77 人（内訳）教諭 48 人、助教諭 10 人、講師 19 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人	
○	○	教育委員会名	金沢市教育委員会	中学校：24 校 学級数：377 クラス
○	○	教育委員会名	野々市市教育委員会	中学校：2 校 学級数：49 クラス
○	○	教育委員会名	かほく市教育委員会	中学校：3 校 学級数：35 クラス
○	○	教育委員会名	白山市教育委員会	中学校：9 校 学級数：120 クラス

教育実習評価票

評価年月日 令和 年 月 日

実習学生	氏名			
実習校	実習校名		学校長氏名・印	
実習担当	教科	学年・組	指導教諭 氏名・印	ホーム(学級)担任氏名・印
		年 組		

以下の「事項別評価」について、該当点を○で囲んでください。

5 = 非常に優れている 4 = 優れている 3 = 普通 2 = やや劣る 1 = 劣る

学習指導	教 材 研 究	教科内容について、十分な理解をしているか。また、教材の選択・教案の立案は適切であったか。	5 4 3 2 1	
	教科指導の技術	導入や説明のしかた・発問など授業展開の工夫・生徒への対応のしかたは、適切であったか。	5 4 3 2 1	
生徒指導	生徒との触れあいと生徒指導	生徒や学級の実態の把握に努め、生徒との相互理解を深めるために、積極的な努力がなされたか。	5 4 3 2 1	
	事務処理能力	生徒指導上、また学級経営上、適切な事務処理などを行うことができたか。	5 4 3 2 1	
勤 務	勤 務 態 度	勤務中、礼儀正しく、常に責任感と誠実さをもって事にあたり、他との協調・理解に努めたか。	5 4 3 2 1	
	出 勤 状 況	期間	勤務すべき日数	欠勤日数
	月 日～月 日	日	日	日

以下の「総合評価」について、評定の該当箇所を○で囲んでください。

A(優)=優れている B(良)=普通 C(可)=やや劣る D(不可)=いちじるしく劣る

評 定	総合所見(ございましたらご記入願います。)			
A(優) B(良)				
C(可) D(不可)				
(備考)				

教育実習生の受入承諾書

令和 4 年 5 月 6 日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢学院大学附属中学校

校長 田邊俊治

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、中学校一種（数学）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習実施計画のとおり、下記の学校で実習生を受け入れることを承諾します。

なお、本校の学級数・生徒数・教員数については、以下の通りです。

記

学級数	4 学級	生徒数	132 人
教員数	21 人 (教諭 10 人・助教諭 0 人・講師 11 人)		

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学校体験活動の受入承諾書

令和4年12月6日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢学院大学附属中学校

学校長 田邊俊治

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

教育実習生の受入承諾書

令和4年11月25日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢学院大学附属高等学校

学校長 村中 幸子



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、高等学校一種（数学）および高等学校一種（情報）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習計画表のとおり実習生を受け入れることを承諾します。

なお、本校の学級数・生徒数・教員数については、以下の通りです。

学級数	32	学級	生徒数	1,069	人
教員数	68	人 (教諭)	59	人・助教諭	0 人・講師 9 人)

(令和4年5月1日現在)

学校体験活動の受入承諾書

令和4年11月25日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢学院大学附属高等学校

学校長 村中幸子



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

教育実習生の受入承諾書

令和 5 年 2 月 8 日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

石川県立小松商業高等学校

学校長

校長 六反田 雅宏



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、高等学校一種（数学）および高等学校一種（情報）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習計画表のとおり、実習生を受け入れることを承諾します。

なお、本校の学級数・生徒数・教員数については、以下の通りです。

学級数	8 学級	生徒数	410 人
教員数	39 人 (教諭 33 人・助教諭 1 人・講師 5 人)		

（令和 4 年 5 月 1 日現在）

学校体験活動の受入承諾書

令和5年2月8日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

石川県立小松商業高等学校

学校長

校長 六反田 雅宏



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

教育実習生の受入承諾書

令和 5 年 2 月 10 日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢市教育委員会

教育長

野口 三

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、高等学校一種（数学）および高等学校一種（情報）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習計画表のとおり、下記の学校で実習生を受け入れることを承諾します。

記

金沢市立工業高等学校 1 校

学級数	18	学級	生徒数	717	人
教員数	77	人	（教諭 48 人・助教諭 10 人・講師 19 人）		

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学校体験活動の受入承諾書

令和5年2月10日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢市教育委員会

教育長

野々 三

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、下記の学校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

記

金沢市立工業高等学校 1校

(令和4年5月1日現在)

教育実習生の受入承諾書

令和4年10月19日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢市教育委員会

教育長

野口 三

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、中学校一種（数学）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習実施計画のとおり、下記の学校で実習生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

金沢市立中学校の総数 24校

（令和4年 5月 1日現在）

学校体験活動の受入承諾書

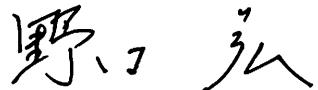
令和4年10月19日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

金沢市教育委員会

教育長



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

金沢市立中学校の総数 24校

(令和4年 5月 1日現在)

教育実習生の受入承諾書

令和4年 //月 //日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

野々市市教育委員会

教育長 大久保 邦彦

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、中学校一種（数学）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習実施計画のとおり、下記の学校で実習生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

野々市市立中学校の総数 2校

(令和4年 5月 1日現在)

学校体験活動の受入承諾書

令和4年//月//日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

野々市市教育委員会

教育長 大久保 邦彦

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

野々市市立中学校の総数 2校

(令和4年 5月 1日現在)



学校体験活動の受入承諾書

令和4年 10月 24日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

かほく市教育委員会

教育長

山之内 兼



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

かほく市立中学校の総数 3校

（令和4年 5月 1日現在）



教育実習生の受入承諾書

令和4年 10月 24日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

かほく市教育委員会

教育長



金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、中学校一種（数学）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習実施計画のとおり、下記の学校で実習生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

かほく市立中学校の総数 3校

(令和4年 5月 1日現在)

教育実習生の受入承諾書

令和4年10月26日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

白山市教育委員会

教育長 田村 敏和

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）において、中学校一種（数学）の教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、教育実習実施計画のとおり、下記の学校で実習生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点での実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

白山市立中学校の総数 9校

(令和4年 5月 1日現在)

学校体験活動の受入承諾書

令和4年10月26日

金沢学院大学

学長 秋山 稔 殿

白山市教育委員会

教育長 田村敏和

金沢学院大学情報工学部情報工学科（仮称）の教職課程において、「学校体験活動」を導入されるにあたり、本校の指示の下で学校体験活動を実施するものとして、貴学学生を受け入れることを承諾します。

ただし、教育実習生全体の調整を図るため、現時点で実習校を確定することは困難であり、個別の学校名は明記できない旨、ご了承下さい。

記

白山市立中学校の総数 9校

(令和4年 5月 1日現在)